

「マキキュート」が、いよいよ現実化 - 地域の活性に向けて、活動を続けたい -

森と暮らすどんぐり倶楽部

代表 松下 照幸

福島原発事故以降、多くのことが変わりはじめましたが、既得権益に群がる人たちの抵抗は大きな勢力を抱えています。どんなことをしても、地域独占と総括原価方式で保証される「莫大な利益」があるからです。

経団連のトップが「原発が無くなったら日本経済はどうなる」と恫喝し、民主党野田首相が媚びを売っています。原発が事故を起こしたが故の「エネルギー危機」であるのに、「エネルギー不足」を理由に、自分たちの既得権益を守ろうとしているのです。

「エネルギー不足」は、原発を推進、維持するための「政略」である事は明白ですが、その「エネルギー不足」が情報をオープンにしない中で演出されていることに、私達はもっと怒らなければなりません。

9月19日の5万人集会は、6万人を超える参加者で埋まりました。福井県からの当日参加者が千駄ヶ谷駅に降りたのですが、「明治公園へ行く道が集会参加者で埋め尽くされ、動かない」との連絡が入りました。明治公園は千駄ヶ谷駅から歩いて20分弱もあるでしょう。大変な人数です。

身動きさえ取れない会場は、福島事故への怒りそのものです。福島県民が数百人も集まり、会場の最前列に座り込んでいます。これだけの集會を、私は初めて体験しました。「全国の人たちの強い怒りを肌で感じたい」と思い、前日から泊まり込みで集會に参加していました。その思いが全うでき、私自身の力に変えることができました。

福島原発事故以降の世論は、「30年以上の古い原発を速やかに止める」こと、「40年を超えるものは即時停止する」ことです。

「断層の真上に建つ原発は、新しい、古いを問わず、即廃炉」です。

福島原発事故以降の世論に照らせば、美浜原発は3機とも断層の真上に建っていますので、即廃炉にしなければなりません。隣接する敦賀市の「もんじゅ」もそうです。そうすると美浜町の財政は破綻し、多くの人が路頭に迷うこととなります。

私は今、「美浜町に原発が無くなることを想定」して、美浜町が脱原発で経済的に自立できるような「政策提案」を模索しています。最近行われた都市部での集会スピーチで、この事を訴えました。主催者の方達が応じて頂き、年内に会議を持つことが決まっています。

7月7日には、町長室で1時間にわたり私個人の「政策提案」を行っています。町長は私の提案を真剣に聞いてくれたと感じていますが、ほとんど反論はありませんでした。「その通りだ」と言えない現実があるのだらうと、勝手な推測をしているのですが、全く的外れではないと私は思っています。

私の個人的な「政策提案」だけでなく、都市部のいろんな方達との議論を通して、「政策」を磨きたいと考えています。美浜町民が読んだら納得してもらえそうな「現実的な解」を作りたいのです。

福島原発事故以降の美浜町民の思いは「脱原発」です。しかし「原発が無くなったら雇用はどうなるのか、自治体財政はどうなるのか」と悩んでいます。住み慣れた土地を命からがら逃げ出さなければならない福島の実情を見て、誰が原発を「良し」とするのでしょうか。

定期検査後の再稼働に向けて、国や電力会社は強気に動き始めています。しかし、福井県知事が県民の思いを受け止めています。「福島原発事故は現行の安全基準で事故を起こしたのだから、福島事故を検証して、暫定的な安全基準を作り、その基準の下で県内の原発の判断をすべきだ」と述べています。その通りですね。ストレステストなどのまやかしを持ってきても、この論理にはとても刃が立たないでしょう。

知事が頑張っていますので、関電が県議会へアメをぶら下げて攻勢をかけていることが、1000万人署名キックオフ集会でささやかれています。事実なら、とんでもない連中です。福島事故以前と何ら変わらない関西電力の姿勢です。「自分たちの原発は安全だ」と言うのなら、理解に苦しむ行為です。関西電力エリアの人たちは、歯をむき出しにして怒って欲しいですね。

3.11以降は、今までにない層の人たちと出会えるようになりました。大忙しです。どんぐり倶楽部の稼働が、お客様の閑散時であっても不足しているのに、3.11以降は悲鳴をあげる状況です。それでも歯を食いしばって、多くの人たちと交流を求めています。

先日は福井市で1000万人署名のキックオフ集会がありました。集会後に街頭に出て署名を行いました。以前の「福井県にこれ以上の原発はいらない！県民署名」時とはずいぶん勝手が違いました。署名に対する県民の熱気が感じられないのです。

私自身は、原発関連の別途会議が入っており、途中参加しかできませんでしたが、この事を肌で感じました。不況下にあって、雇用、自治体財政という課題が、後ろ向きの姿勢になっているのかもしれない。地

道ではありますが、地域のネットワークを活かした署名集めを継続し、実績を作ること、後ろ向きの人たちを牽引することが大切です。

当倶楽部が3年ほど前から企画していた「マキキュート」が、いよいよ現実化してきました。マキを特別なストーブで燃やすことでお湯を作り、一般家庭のお風呂、暖房に利用するというシステムです。オプションでは、各部屋暖房も可能です。

まだ少し改良点がありますが、ほぼ見えてきました。来年には当倶楽部へも導入します。太陽熱とのハイブリッド・システムですので、春から秋にかけて冬のマキ代を稼いでくれることとなります。システムの性能確認ができましたら、全国展開へと意気込んでいます。

スギ間伐材を使うことが可能であり、県の担当者、森林組合からも評価をいただいています。このシステムを導入すれば、大手ハウスメーカーは対応できず、地域の工務店需要が発生します。スギ間伐材を活かすだけでなく、建築主要材が工務店によって木材市場から調達されることになるのです。

これからが正念場ですが、地域の活性に向けて、地道な活動を続けたいと考えています。

たくさんの都市部の人たち、学生さん達が、どんぐり倶楽部を訪ねてくれるようになりました。若い人たちと語り合えることが嬉しいですね。私達の思いを受け止めて頂いて、都市部の生活エリアでどういう活動ができるのか、大いに議論したいと願っています。